

■今年の国語は！？

文章量が増えたことで平均点はやや下がる結果に

■出題形式

大問数や小問数に関しては、ここ数年まったくといっていいほど変化はない。出題形式にも変化は見られず、来年度（'21年度）以降もこの形式は続くと思われる。

平均点に関しては、昨年度（'19年度）大きく上がったが、今年度（'20年度）はWR・LAともに下がる結果となった。

文章量の変化が、そのまま平均点の変化につながっているようにも思え、読むスピードや解くスピードの速さが得点に大きく影響しているようだ。

設問自体は、後に詳しく述べるが、選択問題がすべてといっていないほどであり、ここ数年記述問題は出題されていない。

語彙力や主語・述語・修飾語に関する問題は近年増加傾向にある。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	2問	2問	2問
小問数	25問	24問	24問
	WR/LA	WR/LA	WR/LA
配点	150/100	150/100	150/100
合格者最高点	145.5/94	150/100	150/100
受験者平均点	98/63.2	122.1/77.3	118.2/76.2
合格者平均点	113.3/67	135.7/81.7	130.2/81.3

※ WRの3科受験は、国算理の合計点の1.25倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の1.25倍の、どちらかのうち高い方で判定。
 ※ LAの3科受験は、国算理の合計点の4/3倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の4/3倍の、どちらかのうち高い方で判定。

■出題内容

- ㊦ 文学的文章：『キャプテンマークと銭湯』佐藤いつ子 約7000字 KADOKAWA
- ㊦ 説明的文章：『「食えること」の進化史 培養肉・昆虫食・3Dフードプリンタ』石川伸一 約4000字 光文社新書
- ㊦ 自分の所属するサッカーチームに来て1ヵ月の友達に、キャプテンマークをゆずることになってしまった少年の心情の動きが描かれている文章。多くの中学校で出題された重松清の『きみの友達』を彷彿とさせる場面であり、受験生にとっても読みやすく、心情の変化もとらえやすい文章であったと思われる。

昨年度と同様に記述問題もぬき出しもなく、選択問題のみであり、WRを目指すのであれば、漢字も含め、全問正解しておきたいレベルであった。選択式10問+漢字1問（昨年度【選択式11問+漢字2問】）。

- ㊦ ヒトの祖先の初期猿人が、約700万年前にチンパンジーとの共通の祖先から分かれてから初期ヒト属へと進化していく過程について書かれた文章。「気候変動をきっかけとした食事の変化やそれに伴う身体の変化、そして生活の変化」と、話が多岐にわたっているうえ、文章量も多く、説明的文章の読み取りがきちんと訓練されているかどうかが問われる内容となっていた。時間配分がうまくできず、最後まで解答することができなかった受験生も少なくなかったのではないかとと思われる。

出題内容はこちらも例年通り、選択式を中心にしつつ、見つけるのに時間のかかるぬき出しの問題が入っているというものであった。選択式10問+ぬき出し2問+四字熟語1問（昨年度【選択式9問+2問】）。

■合格に向けての対策

文章量が多くなり、平均点が下がったとはいえ、高得点勝負であり、また選択問題が多いことから点数差もつきやすいため油断は禁物です。

また、例年出題されているぬき出し問題は難度が高く正解しにくいものになっています。例えば、傍線部から答えまでの距離が遠く、見つけるまでに時間がかかるものがまぎれているなど、時間配分には注意が必要です。

文学的文章では「心情」や「行動や心情の理由」が、説明的文章では「文意」や「文脈把握」「目的や理由」が、それぞれ多く問われています。また、どちらの文章においても「語句の意味」や「ことわざ・慣用句」などが問われることが多いです。

ただし、いずれもこれまでの学習で身に付けることのできる思考力や語彙力で解答できるものなので、日々の学習で知らなかったことできなかったことを確実に復習しておくという、ごく基本的な学習習慣を身に付けることが大切です。

来年度以降も、本格的な記述問題が出題される可能性は低いと思われるので、難問をこなす必要はなく、基本的な演習を数多くこなすことを重視して学習を進めることが大切です。その際、きちんと時間を計って、読むスピードや解くスピードを上げていくことも心がけてください。

選択問題で確実に正解できるようにするためにも、答えの手がかりを文中からきちんと見つけながら、文脈を意識するように心がけてください。文学的文章では「会話」に、説明的文章では「筆者の意見・主張」が書かれているところに着目すると良いでしょう。

WRコースは特に高得点の勝負となるので、ミスに気をつけて失点を最小限に食い止められるように日頃からいねいな学習を心がけてください。

■今年の算数は！？

形式や難易度は昨年度と同じ！7割は必達ラインか!?

■出題形式

昨年度（'19年度）までは、B4用紙2枚形式であったが、今年度（'20年度）入試からB5小冊子形式にスタイル変更をされている。大問数は7問で、問題1四則計算、問題2小問集合、問題3～問題6は大問の中に1問～3問の問いがあった。問題7は1問で、求め方を書かせる問題となっている。標準的な大問数は7問～9問で、小問数は15問～17問となっているので、昨年度と比較して、大問数は同じ、小問数は2問増、となっているので、ほぼ例年通りの入試であった。また、最後の1問で求め方を書かせる点も、難易度も昨年度と変化はない。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	7問	7問	7問
小問数	15問	15問	17問
	WR/LA	WR/LA	WR/LA
配点	150/100	150/100	150/100
合格者最高点	150/100	150/100	150/100
受験者平均点	107.6/63.1	129.3/78.2	114.5/70.6
合格者平均点	137.9/67.7	145.1/87.9	131.6/76.3

※ WRの3科受験は、国算理の合計点の1.25倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の1.25倍の、どちらかのうち高い方で判定。
 ※ LAの3科受験は、国算理の合計点の4/3倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の4/3倍の、どちらかのうち高い方で判定。

■出題内容

- 問題1 四則計算
- 問題2 問1 逆算 問2 比 問3 速さ 問4 単位 問5 場合の数 問6 不定方程式
- 問題3 割合（勝率の問題）
- 問題4 平面図形（相似・角度）
- 問題5 平面図形（おうぎ形の周りの長さ・面積）
- 問題6 立体図形（水量とグラフ）
- 問題7 割合の文章題（比の利用）
- 問題1 基本的な分数の四則計算。

- 問題2 基本的な種々の小問集合。各小問いずれも平易。確実に全問正解したいところ。なお、問5は色塗りの場合の数。
- 問題3 割合の問題。女子受験生には馴染みの薄い勝率の問題。ただし、説明もあるので平易。ここは確実に正解したい。
- 問題4 平面図形の問題。典型的な相似・角度の問題。受験生であれば何度も解いたことがあるはずで確実に点を取りたい。
- 問題5 おうぎ形の面積・長さの問題。平易で確実に正解したい。
- 問題6 水量とグラフの問題。問1を解答できると問2と問3が簡単に求められる。是非問1を解答して欲しい。
- 問題7 割合の文章題。記述も含めて、丁寧に求めれば難しくはない。

総合的な難易度は昨年度と比較して上昇しているとは言えない中、受験者平均点がWRで14.8点、LAで7.6点下がっている。問題2問6と問題3という途中の位置に、やや難しい問題が出題されているので、「ここを正解しに行くか」それとも「まず、最後まで解いてみるか」の判断に迷いながら問題を解き進めた受験生が多かったのではないかとと思われる。

■合格に向けての対策

問題1、問題2は計算および小問集合で、ここは得点源にしたいところです。配点が全得点の4割を占めており、うっかりミスをするダメージはことのほか大きくなります。確実に正解できるようにしておきたいところです。

問題1は、基本的な計算問題ではありますが、桁数の多い計算問題もあるので、正確に速く解く練習を積むことが大切です。また、必ず答え合わせをし、ミス単なる計算ミスとして放置せず、ミスの原因を発見し、改善することが大切です。さらに、分数から小数、小数から分数に素早く変換でき、分配法則を自由に扱えるように普段から練習を積んでおいてください。

問題2は小問集合です。どの問題も難問はなくいたって平易です。同じレベルの問題は、小6受験コースの後期教材である『ラプラス』の★や★★レベルに該当します。

問題3以降は例年ならば1問～3問の小問から構成されています。整数の性質、規則性、比・割合、平面図形、立体図形などの幅広い単元から出題されています。これらも、ほとんどが『ラプラス』の★★レベルまでの問題なので、後期の学習期間中に『ラプラス』の★★までを最低3回は繰り返して行い、完璧に仕上げることが大切です。（極論すれば、『ラプラス』の★や★★レベルの問題を100%できる状態にしておけば、それより多少難易度の高い問題が解けなくても、算数の合格基準点を十分に上回ることができます。）

なお、最後の1問は答えの求め方も書かせる形式なので、表や線分図、面積図、状況図、ベン図など普段から正確に速くかく練習をしておき、これらを利用して簡潔に説明ができる記述力も養ってください。得点するためには、何か書くということが大切です。ただし、不必要なことは書かないことに留意しましょう。

■今年の理科は！？

とにかくきっちり正確に！基礎知識の徹底的なマスターを。

■出題形式

例年と変わらず、今年度（'21年度）も、物理・化学・生物・地学から1問ずつというバランスのとれた大問4問構成である。小問数は23問でいくつか枝問を含み、完答の1問を含め解答欄数は35個であった。

内容的には基本問題を中心とした出題であり、難易度も例年と変わらない。また、1つの大問でテーマが絞られていることから、大変取り組みやすくなっている。

問題数に対して試験時間が45分と長めであることもあって、WRの可否判定は、実質高得点圏での争いになると予測される。ある意味、受験生の実力が発揮しやすい入試問題であるといえる。LAコースでは7割、WRコースでは8割得点することができれば、合格は固い。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	5問	4問	4問
小問数	31問	27問	34問
配点	100点	100点	100点
	WR/LA	WR/LA	WR/LA
合格者最高点	96/88	89/96	91/98
受験者平均点	71.9/67.2	64.7/60.0	67.1/64.0
合格者平均点	79.8/70.4	74.2/65.0	73.3/69.1

※ WRの3科受験は、国算理の合計点の1.25倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の1.25倍の、どちらかのうち高い方で判定。

※ LAの3科受験は、国算理の合計点の4/3倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の4/3倍の、どちらかのうち高い方で判定。

■出題内容

- 問題1 化学 物質の体積変化と状態変化
- 問題2 時事・生物 ノーベル賞関連・ヒトのからだ（血液のはたらき）
- 問題3 物理 物体の衝突
- 問題4 地学 気象観測

問題1 物質の体積変化と状態変化に関する問題。4年、5年の通常授業で習う内容がそのまま出題された。いずれも基本的なものであるため、この大問では確実に点を取る必要がある。

問題2 前半はノーベル賞についての問題。2019年の受賞者である吉野彰氏はもちろん、過去の受賞者についても出題された。ノーベル賞については、その年の受賞内容について、6年生でもある程度の理解が可能なのであればその年の入試に、そうでなければ年度を過ぎてから、わかりやすい受賞内容と共に出題される可能性が高くなる。後半はヒトのからだの血液のはたらきについての問題。こちらは5年の通常授業で習う内容が基本知識として出題された。やはり確実に点を取る必要がある問題といえる。

問題3 物体の衝突についての問題。5年の教材である『スーパーノート+テキスト』や『宿題テキスト』でも似た問題が扱われているが、この単元の初回導入時には、この単元を苦手とする生徒が多い印象がある。ただし、出題される問題のレベルはあくまでも基本的な内容なので、受験時までには繰り返し演習を重ねていくことで、十分得点することは可能である。

問題4 気象観測についての問題。5年の通常授業で習う内容がそのまま出題されている。いずれも基本的な知識問題なので、正確な知識を身につけておけば十分得点できる。

■合格に向けての対策

大半の問題が基本的な知識問題なので、高得点勝負になることは間違いありません。WRコースで8割、LAコースで7割の得点を目指して勉強に励んでください。まず考えるべきことは、大半を占める基本問題をいかにして正確に解き切るかということです。そのために、基本的な問題に数多く取り組み、「絶対に間違わない。」と自信を持てる単元を増やすことが大切です。宿題テキスト、ショートテストβ、日曜進学教室チャレンジコース、本学園後期演習テキスト「コペルニクスβ」の問題は、何度も繰り返し復習してください。出題される問題の範囲は多岐にわたるので、苦手単元は特に重点的に復習をしておくべきです。

今年度は5年で習う内容が問題に直結していました。5年のうちから毎回の宿題を確実にこなし、ショートテストを実施当日に解くだけでなく、その復習も確実に行ってください。来年度（'21年度）に受験する6年生は、日進の成績から苦手な単元の洗い出しを行い、基本の抑えをその都度行うようにしてください。

また、昨年度（'19年度）は出題されませんでした。先述の今年度はノーベル賞についての問題が出題されました。過去にもその年に話題となった科学ニュースを問題に入れたことのある学校なので、来年度の受験生は1年間、新聞やニュースを必ずチェックするようにしてください。

■今年の社会は！？

写真・地図・統計・時事！

■出題形式

大問数は3問で、小問数は昨年度（'19年度）とほぼ同じ55問であった。このうち語句解答は9問。この9問のうち8問が漢字指定。昨年度同様、記号解答が多かった。

出題分野別に見ると、地理分野15問、歴史分野22問、政治・時事分野18問となっており、ここ数年続いている歴史分野の出題割合が高い傾向が引き継がれた形になっている。今年度（'20年度）も昨年同様、時事的内容の出題が見られた。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	4問	4問	3問
小問数	64問	54問	55問
配点	100	100	100
	WR/LA	WR/LA	WR/LA
合格者最高点	89/95	89/81	88/86
受験者平均点	68.4/64.0	67.9/64.3	69.8/65.3
合格者平均点	75.0/67.0	76.6/67.6	72.1/68.3

※ WRの3科受験は、国算理の合計点の1.25倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の1.25倍の、どちらかのうち高い方で判定。

※ LAの3科受験は、国算理の合計点の4/3倍で判定。4科受験は、国算理社の合計点か国算理の合計点の4/3倍の、どちらかのうち高い方で判定。

■出題内容

- 1 時事・公民 三権と憲法、地方自治 …三権・憲法・選挙と地方自治など総合的な問題。
- 2 歴史 日本の貨幣に関する文をテーマにした通史 …各時代の特徴や関連人物を問う歴史総合。
- 3 地理 日本各地の地域に関する問題 …各地の特徴（気候・産業・くらし）を問う問題。

「地理分野」

'18年度、昨年度と出題があった写真の使用や「地図の読み取り」に関する問題が今年度も出題された。地図の読み取りでは、2点間の断面図を選択させる問題であった。ほかの問題では、気候グラフ、最北端の島、農業、水産業、工業、伝統的工芸品、災害（2016年熊本地震）など、難易度は標準的な出題で、受験生をなやませるような出題はなかった。今年度のような総合的な出題が予想されるので、地図帳などを使って地域の特徴に関する学習が必要である。

「歴史分野」

日本の貨幣にまつわる文章に関する問題。各時代の特徴や関連語句、関連人物を問う基本的な出題であった。紙幣の肖像に関する問題は、新紙幣の導入が発表されたことによる時事的出題であった。ここ数年、漢字指定での語句解答は減少傾向にあるが、用語に関しては漢字で書けるようしておく必要がある。難易度に関しては、普段の通常授業・日進のレベルを超える問題はなかったが、正文選択・誤文選択の問題が多い印象だったので、語句の暗記だけでなく、歴史の事柄の意味・内容まで理解する学習が必要である。例年、当学校の入試問題で見られる「時代順整序（古い順に並べ替える）」問題は、社会科、とくに歴史を苦手とする受験生は苦戦することが多いので、年号の暗記などもしっかりと行う必要がある。

「政治・時事分野」

三権（国会・内閣・裁判所）・憲法・地方自治に関する出題で、問題の難易度は標準的で、受験生にとって、学園の通常授業や日進、過去問などでくり返し触れたことのある内容であったと思われる。しかし、出題形式が、例年、同志社女子中の問題で見られる正文・誤文を選択させる問題が多く、語句の暗記中心の学習をしてきた者にとっては手を焼いたことと思われる。このような文章選択式の問題は、語句の暗記だけではなく、意味・内容まで理解する学習が必要である。

また、今年度は、上記3分野に共通して「表・グラフ・文章から読み取れるものを選ぶ」出題がみられた。知識の暗記ではなく、知識の活用が必要になってくると思わせる出題で、次年度（'21年度）以降も要警戒の出題パターンである。

■合格に向けての対策

成基学園での授業やテキストの基本事項を徹底して習得すれば十分対応できる問題が出題されています。毎回の授業・シートテストの復習、宿題の提出を履行していれば、合格点を取ることは十分可能です。その上で、各分野別の対策として…

地理分野：「各都道府県の特徴」や「地形図の読み取り」、「日本の産業」など基本的とはいえ、多方面に出題されるので、各単元ともしっかりとおさえておいてください。また、『地図帳』で地形、『日本のすがた』で資料・グラフの確認も忘れずに行ってください。

歴史分野：出題率が高い「人物・資料（写真）・時代順整序」は、歴史資料集の活用や類似問題で訓練をつむなどが必要です。また、文章選択問題も例年多いので、単純な用語の暗記だけではなく、内容を理解する学習も必要です。

政治分野：日本の政治、世界に対する日本の役割の基本事項を理解することが必要です。また、時事問題の対策として日頃からニュースや新聞で世界の動きにはチェックをしておく必要があります。